

1962年新潟県生まれ。筑波大学卒。
大手ベンチャーキャピタル、原宿のアパレル会社を経て1994年独立。
(株)フラクタル設立。大宮を中心に新しいユニークな小売りや飲食のお店を
フランチャイジーとして展開。現在はオリジナルで「常盤珈琲焙煎所」6店舗と、
フランチャイズで「カーブス」6店舗、計12店舗。
趣味は旅行と現代アートを観ること。



OMIYA
PEOPLE
No.004

富所伸一 | 株式会社フラクタル代表取締役

魅力的な個人店が集積する街—— 奥と裏のある大宮へ

「UDCO PAPER —ひとを紡ぐ#004では、大宮を中心として高品質なコーヒー豆を販売する「常盤珈琲焙煎所」の代表・富所伸一さんに、店舗と地域の関わり、商業やライフスタイルの視点から大宮の街への思いを伺いました。

【聞き手：内田奈芳美(UDCO副センター長)】

内田 大宮に常盤珈琲焙煎所を出店したきっかけをお聞かせください。

富所 僕は新潟県の出身で、もともと大宮に縁があったわけではありません。1994年に独立して最初の店をアルシェに出店したことが、大宮と関わる最初のきっかけです。だれも見たことのないお店をやりたいと思って、当時はまだあまり知られていない新しい自然派化粧品店のフランチャイズ店を出したんです。その後も、大宮を中心にいろいろなフランチャイズを展開してきました。そのうち、自分たちのオリジナルの店を出したいと思い、コー

ヒーにたどり着きました。2012年にアルシェの裏に常盤珈琲焙煎所(大宮本店)をオープンしました。やはり大宮はいろんな人がいてマーケットが大きいんですよね。どこからも人が集まってきますし、高齢者や若い人、いろんな客層がいます。

多様な客層と流通上の強み

内田 大宮は交通の結節点としてのポテンシャルが高いと言われています。商売をされている視点から、どのようにしたらその可能性をさらに活かせると思いますか？

富所 もっと面白い店が増えたらいいと思います。駅の周りに全国チェーンの店が多いのは賃料が高いからですね。なかなか個人店が出店しづらい。だから、どこに行ってもチェーン店ばかりになってしまいます。でも最近では、氷川参道の近くにできた「デリカ」(2018年に

オープンした地元食材を使う飲食店)のように、おもしろいお店が増えています。駅から離れているので、最初は「本当にここに店を出すのかな」と思ったけど、いまでは人気店です。大宮ならではの店が増えるといいですね。一方で、大宮には「日高屋」や「しまむら」「かっぱ寿司」といった流通に強いチェーン店が多く生まれています。なぜかという、ここでマーケットの実験ができるからでしょう。大宮にはいろんな客層の人がいるので、マーケットの平均化ができる。大宮で成功したモデルを全国に展開できるわけです。大宮は商売をスタートする場所として適しているのだと思います。

内田 大宮は流通上のメリットがある一方で、個人店にとっては他にどのようなメリットがあると思いますか？

富所 大宮の「広がり」に可能性がありますね。たとえば、埼玉の他の地域で人気店になったとしても、「地元の名店」に終始してしまうかもしれませんが、大宮だとより商圏が広がりやすいんじゃないかと思います。大宮はいろいろな人が流入しますし、なにかのついでに寄りやすいというメリットも

大宮で成功したモデルを全国に展開できる

あります。西口にある常盤珈琲焙煎所の大宮本店は、駅から近いということもありますが、けっ

つう遠方からお客さんがいらっしゃいます。コーヒーが好きな人は、わざわざ調べて店に来てくれるんです。大宮にはそういう人が多いです。都心から地方に帰るときに、大宮で買い物をしてから新幹線に乗って帰る。そういうことも期待できますよね。

奥行きのある大宮の魅力

内田 一般的に駅から離れた場所は賃料が安くなる代わりに、店の集客性が損なわれてし



常盤珈琲焙煎所 大宮氷川参道店 出典：富所氏



見沼んぼからさいたま新都心を望む

図書館の跡地には、カルチャーを感じられる場所になってほしい

まいます。ところが、大宮は駅から少し離れたところにも氷川参道や大宮公園のような、賃料の安さを超えた別の魅力がありますよね。

富所 そうですね。その魅力を商売に生かすには、おもしろいお店が集まる必要があります。東京の裏原宿のように、魅力的な個人店が集積する「裏大宮」になればいいなという

も思っています。表通りの賃料が高いから、若い人の個人店が裏に集まるわけですね。大宮には表しかないので、街としておもしろくないんです。大宮の奥には氷川

神社や大宮公園がありますし、その境界は雰囲気もいいです。さらに、その先には見沼の田んぼが広がっています。僕はよく、見沼代用水沿いを自転車で通りますが、気持ちがいいんですよ。春は桜もきれいですし、田んぼの奥にはさいたま新都心の高層ビルが見えて、とてもいい風景です。ですが、見沼田んぼの周辺は市街化調整区域の規制が厳しいので、店を出すのはとても難しい。だからこそ景色が守られているわけですが、魅力的な要素を活用できておらず、もったいないと感じています。田んぼを守りつつ規制緩和をすれば、人が集まってさらに活性化するでしょう。

ライフスタイルを発信する店と街

内田 常盤珈琲焙煎所さんでは、地域との関わり方はどのように意識されているのでしょうか？

富所 僕たちのコンセプトは「FINE COFFEE AT HOME」で、家でおいしいコーヒーを淹れてもらいたいという思いがあります。当店で取り扱っているのは、スペシャルティコーヒーと呼ばれるランクの高いコーヒー豆です。おいしいと感じるかどうかは個人の嗜好の問題ですが、まずは「いいコーヒー」があることを大宮の人に知ってもらいたいと思っています。それは絶対に通販では伝わりません。たまたま入った常盤のお店で、試飲したりスタッフが

らの説明を聞いて

「コーヒーってこんなにおいしいんだ」と思ってもらえたら嬉しいですね。お店ではハンドリップセミナーも開いていますし、より素晴らしいスペシャルティコーヒー豆を求めて、年に数回、中米・アフリカなどの産地に足を運んで豆を直接買い付けています。

内田 大宮氷川参道店の近くには大宮図書館があります。今後、移転することになっていますが、移転後どのようなものができるか、お店との相乗効果があると思いますか？

富所 図書館を利用されている方は、よくお店に来てくれます。図書館の跡地には、カルチャーを感じられる場所になってほしいですね。コーヒーを楽しむ人は、文化度の高い人が多いんじゃないかと思います。あくまでイメージですけど(笑)。ライフスタイルを楽しんだり、アートやカルチャーに親しんだり。そういったことに共感できる人が集まるといいなと思います。僕は昔からアートが大好きなんです。2020年には大宮でさいたま国際芸術祭が開催されますよね。僕の田舎の大地の芸術祭の「キナーレ(越後妻有里山現代美術館)」のように、大宮にも芸術祭の中心や象徴となるようなものがあるといいですね。

UDCOへ期待すること

内田 UDCOに対して期待することをお聞かせください。

富所 地域が活性化するために、大宮にもおもしろいお店が増えればと思います。自分のお店を出したいと考えている若い人が、大宮に興味をもってもらえるようになるといいですね。もうひとつは、大宮公園や見沼田んぼ周辺の規制に弾力性があればと思います。なので、UDCOには行政へのそうした提言や働きかけを期待しています。見沼は耕作放棄地が多いので、使い方が変わればもっとよくなる

のではないのでしょうか。地域を弾力的に運用して、何かやりたいと思っている人を集めたいほうが街は活性化するはずですよ。

内田 UDCOでは「ストリート・インキュベーション」というコンセプトでおおみやストリートテラスという社会実験を実施し、常盤珈琲焙煎所さんにも出店いただきました。どうでしょう、もっとこうしたらいいのではということがありましたら教えてください。

富所 イベントとしてより尖っていたり、分かりやすいものになるといいですね。あまりマニアックだと、社会実験としてやりづらいかもされないけど(笑)。たとえば、国連大学で開催している東京コーヒーフェスティバルには、ものすごくたくさんの方が集まります。テーマに特化したイベントだと、より多くの人に伝わりますよね。一言で説明できるように分かりやすく、SNSで共有したくなるような。今の若い人の関心に届くようなテーマや意外性があるといいですね。もちろん人を集めることだけが目的ではないですが、まずは「こんな場所があるんだ」と知ってもらうことが大事だと思います。

内田 最後に、今後の展望についてお聞かせください。

富所 先ほど申し上げたように、いいコーヒーがあることをひとりでも多くの人に伝えたいと思っています。今年の2月には、府中市に新しい常盤珈琲焙煎所をオープンしました。今後は、府中を中心に多摩地域や、さらには横浜のほうまで、東京の周辺を結べたらと思っています。

UDCO PAPER #004 — ひとを紡ぐ

2019年3月22日発行

編集・発行：UDCO[アーバンデザインセンター大宮]

編集協力：水野雄太

デザイン：刈谷悠三・角田奈央・neucitora

問合せ先：UDCO[アーバンデザインセンター大宮]

330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町一丁目60番地

大宮ラクーン8F まちラボおおみや内

TEL: 048-782-9679 | FAX: 048-782-9680

©2019 UDCO All Rights Reserved